

12 日本語IMEをカスタマイズしよう

ここで学ぶこと

- ・ Microsoft IME
- ・ IME ツールバー
- ・ 予測入力

Windows 11には、日本語入力を行うために「Microsoft IME」と呼ばれる日本語IMEがプリインストールされています。ここでは、Microsoft IMEの**設定ページの開き方**や**トラブルが発生したときの対処方**などを紹介します。

1 Microsoft IMEの設定を行う

解説

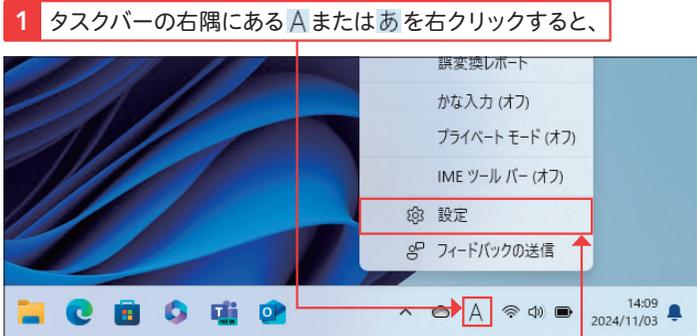
Microsoft IMEのカスタマイズ

Microsoft 日本語IMEのカスタマイズは、右の手順でMicrosoft IMEの設定ページを開きます。Microsoft IMEの設定ページでは、変換候補に表示する文字の種類（ひらがな、全角カタカナ、半角カタカナ、ローマ字）や句読点の種類などの入力設定のほか、予測入力のオン/オフ、**無変換**や**変換**を押したときのキーの割り当てのキーカスタマイズ、学習方法の設定や辞書への単語の登録、デザインなどの各種設定が行えます。

補足

日本語IMEとMicrosoft IMEの違い

日本語IMEは、Windowsで日本語入力を行うためのアプリケーションの総称です。一方で、Microsoft IMEとはマイクロソフトが開発したWindowsで日本語入力を行うためのアプリケーションです。



1 タスクバーの右隅にあるAまたはあを右クリックすると、

2 メニューが表示されるので、「設定」をクリックします。

3 Microsoft IMEの設定ページが表示されます。



2 以前のバージョンのIMEに戻す

解説

問題が発生した場合の対処方

Microsoft IMEを利用して、変換候補が2つしか表示されないなど日本語入力に関するトラブルが発生したときは、右の手順で以前のバージョンのMicrosoft IMEに戻すことでトラブルを解消できる場合があります。

補足

「設定」からMicrosoft IMEの設定を開く

56ページの手順でMicrosoft IMEの設定ページが開けないとき、または以前のバージョンのMicrosoft IMEを使っているときは、「設定」を開き、[時刻と言語] → [言語と地域] → [日本語]の... → [...言語のオプション] → [Microsoft IME]の... → [...キーボードオプション]の順にクリックすることで、Microsoft IMEの設定ページを開けます。

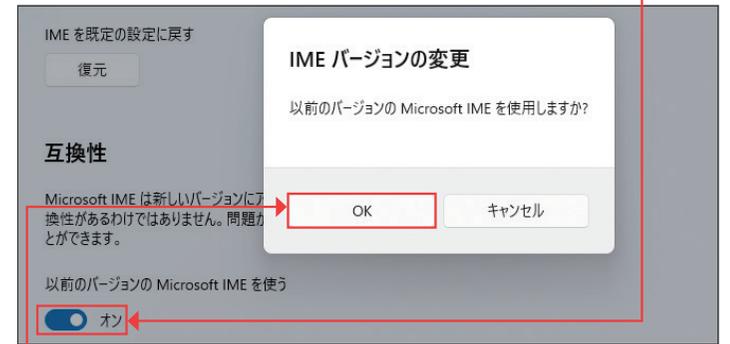
1 56ページの手順でMicrosoft IMEの設定ページを開きます。



2 [全般]をクリックします。

3 画面をスクロールして、

4 [以前のバージョンのMicrosoft IMEを使う]の☑️をクリックして、



5 [OK]をクリックします。

6 パソコンを再起動します。

応用技 予測入力をオフにする

日本語IMEの予測入力を利用したくないときは、以下の手順で予測入力をオフにできます。

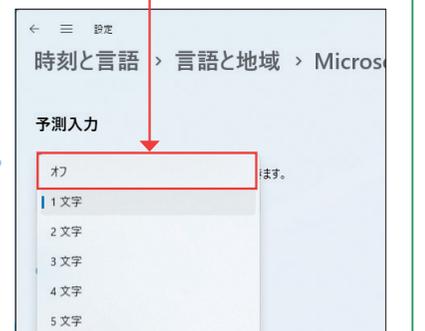
1 56ページの手順でMicrosoft IMEの設定ページを表示し、「全般」をクリックします。

2 画面をスクロールして「予測入力」を表示し、

4 [オフ]をクリックすると、予測入力がオフになります。



3 [1文字]をクリックします。



Section

24

インターネット接続を共有しよう

ここで学ぶこと

- ・インターネット接続の共有
- ・モバイルホットスポット
- ・Wi-Fi

Windows 11には**モバイルホットスポット**と呼ばれるインターネット接続共有機能が備わっています。この機能を利用すると、利用中のインターネット接続をほかのパソコンやタブレットなどと**共有**できます。

1 モバイルホットスポットをオンにする

解説

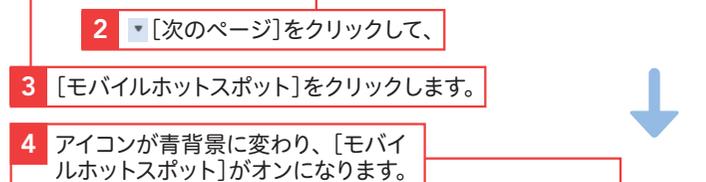
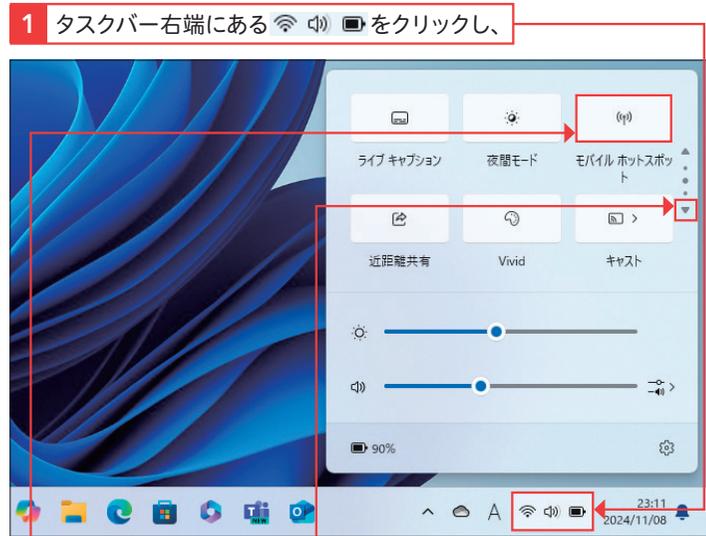
モバイルホットスポットとは

モバイルホットスポットは、Windows 11のパソコンが接続中のインターネットを、ほかの機器（パソコンやスマートフォン、タブレットなど）と共有する機能です。AndroidスマートフォンやiPhoneなどに搭載されている「テザリング機能」と同じ機能です。この機能はWi-Fiを備えたパソコンでのみ利用でき、Wi-FiまたはBluetoothを利用して最大8台の機器とインターネット接続を共有できます。モバイルホットスポットのオン/オフの切り替えは右の手順で行えるほか、「設定」から行うこともできます（26ページ参照）。

補足

モバイルホットスポットをオフにする

右の手順4で青背景になった[モバイルホットスポット]アイコンを再度、クリックするとモバイルホットスポットをオフにできます。



2 モバイルホットスポットへの接続設定を確認する

ヒント

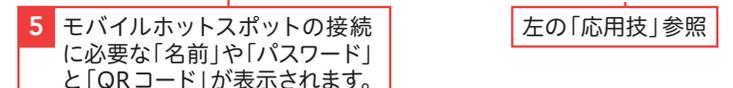
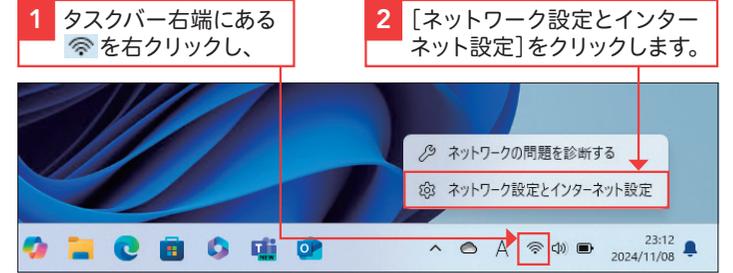
モバイルホットスポットへの接続設定

モバイルホットスポットへの接続に必要な接続先の名称(名前)やパスワードなどの情報は、右の手順で確認できます。また、右の手順で表示された「QRコード」をパソコンやタブレット、スマートフォン搭載のカメラで読み取ることでモバイルホットスポットに接続できます。「設定」を開き、[ネットワークとインターネット]→[モバイルホットスポット]とクリックすることで手順4の画面を表示できます。

応用技

接続設定を変更する

右の手順5の画面で[編集]をクリックすると、以下の画面が表示され、接続先の名称(名前、ネットワーク名)やパスワード(ネットワークパスワード)、ネットワーク帯域、セキュリティの種類などの設定を変更できます。



左の「応用技」参照

32 Outlook for Windowsを起動しよう

ここで学ぶこと

- ・ Outlook for Windows
- ・ 起動
- ・ メールの閲覧

Outlook for Windowsは、**メールの閲覧**や**送受信**を行うアプリです。Windows 11にあらかじめインストールされています。Outlook.comで取得したメールアカウントやプロバイダーメールのアカウントの管理を行えます。

1 Outlook for Windowsを起動する

解説

Outlook for Windowsとは

Outlook for Windowsは、長らく利用されてきた「メール」/「カレンダー」アプリに変わるアプリです。「メール」「予定表」「連絡先」などの機能が統合されています。なお、2024年11月現在、Outlook for Windowsは、旧バージョンの「メール」アプリと区別するために、「スタート」メニューでは[Outlook (new)]という名称で表示されています。

注意

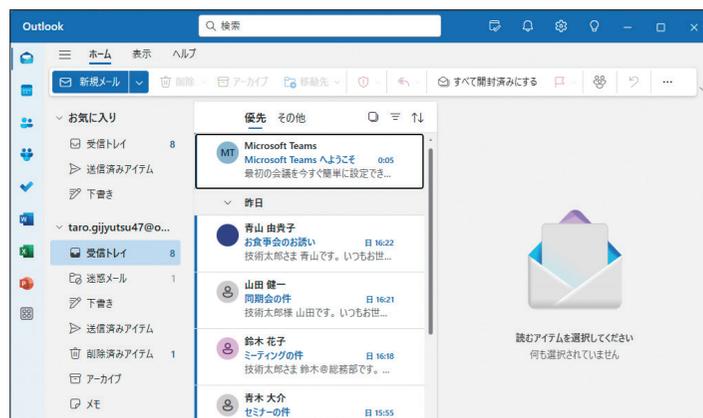
すでにメールを利用している場合は

Windows 11のOutlook for Windows以外のアプリでメールを利用している場合やGmail/Yahoo!メールなどのWebメールをすでに利用している場合は、利用環境を無理に変更する必要はありません。メールの利用環境を変更したいときのみ、本書を参考に設定を行ってください。



2 [Outlook (new)]をクリックします。

3 Outlook for Windowsが起動します。



2 メールを閲覧する

補足

画面デザインが異なる

Outlook for Windowsは、ウィンドウの幅の広さによって画面デザインが一部異なります。本書の画面と異なるときは、ウィンドウの幅を広げたり、狭くしたりしてみてください。なお、メールの内容を表示する閲覧ウィンドウは、表示位置を変更できます。表示位置の変更は、「表示」→[レイアウト]→[閲覧ウィンドウ]の順にクリックすることで行えます。

補足

スレッドを展開する

Outlook for Windowsには、件名などを基準に関連すると思われるメールをまとめて表示するスレッド表示という機能を備えています。スレッドにまとめられているメールには▶が付けられており、これをクリックすることでスレッドを展開できます。

補足

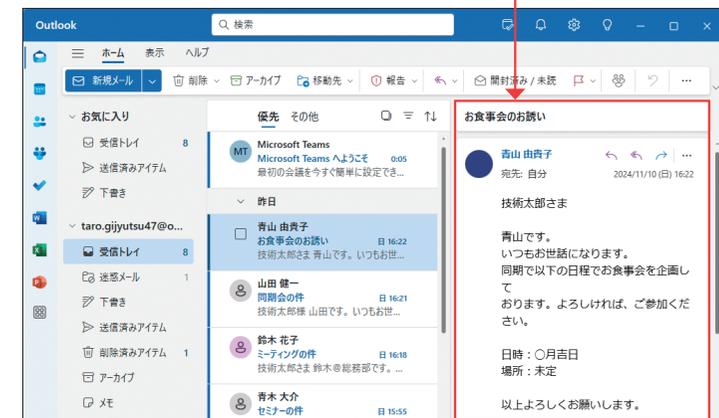
よろこ画面が表示される

Outlook for Windowsをはじめて起動したときは、「新しいOutlookへようこそ」という画面が表示される場合があります。この画面が表示されたときは、Outlook for Windowsで利用するメールアカウントの初期設定を行います。Microsoftアカウントで利用しているメールアドレスの設定を行うときは、お勧めのアカウントにそのメールアドレスが表示されていることを確認し、[続行]をクリックして画面の指示に従って初期設定を行います。ほかのメールアドレスを設定したいときは、そのメールアドレスを入力し、[続行]をクリックして画面の指示に従って初期設定を行います。

1 読みたいメールをクリックすると、



2 メールの内容が表示されます。



42

Androidスマートフォンと連携しよう

ここで学ぶこと

- ・スマートフォン連携
- ・リンク
- ・Androidスマートフォン

「スマートフォン連携」アプリを利用すると、Androidスマートフォンに届いたSMSのメッセージをパソコンで送受信したり、通話をしたりできます。この機能を利用するには、Androidスマートフォンとパソコンをリンクします。

1 Androidスマートフォン/タブレットとのリンクの準備を行う

解説

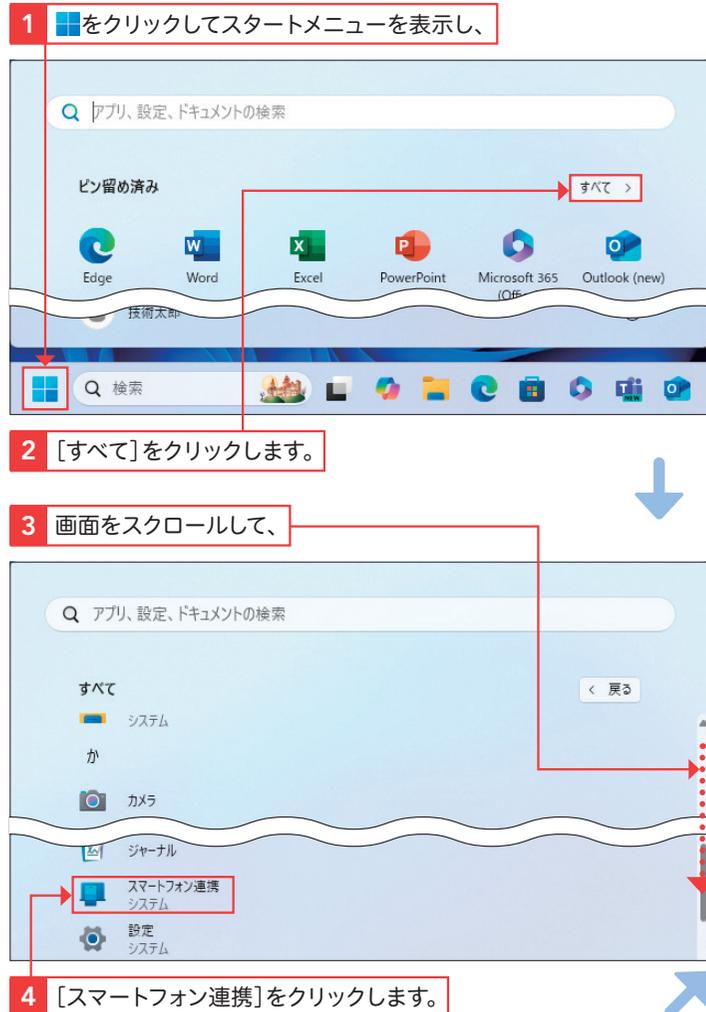
「スマートフォン連携」アプリを利用するには

Androidスマートフォンで「スマートフォン連携」アプリを利用するためには、Microsoft アカウントが必要です。また、Androidスマートフォンとパソコンをリンクする必要があります。リンクは、右の手順を参考に、「スマートフォン連携」アプリでパソコンのモニターに「QRコード」を表示し、150ページからの手順でそのQRコードをAndroidスマートフォンで読み込むことで行います。

ヒント

Windowsの初期設定でも設定できる

Androidスマートフォンとパソコンのリンクは、Windows 11の初期設定時(302ページ参照)に行うこともできます。Windows 11の初期設定時にリンクを行う場合は、150ページからの手順を参考にAndroidスマートフォンで作業を行ってください。



補足

「サインイン」画面が表示された

「スマートフォン連携」アプリをはじめて起動したときは、手順6のあとに「サインイン」画面が表示される場合があります。「サインイン」画面が表示されたときは、画面の指示に従ってサインインを行ってください。

補足

iPhoneの場合

iPhoneとパソコンをリンクするときの手順については、158ページで紹介しています。手順6で「iPhone」をクリックし、158ページからの手順を参考にリンク作業を行ってください。

補足

連携済みの機器がある場合

2台目以降の機器を連携させるときは、右の手順5の画面は表示されません。手順5の画面を表示したいときは、設定→[自分のデバイス]→[新しいデバイスのリンク]の順にクリックします。なお、「スマートフォン連携」アプリで連携できるのは、「既定」に設定された1台の機器のみです。現状では2台の機器を連携しても2台同時に利用できるわけではありません。

5 「スマートフォン連携」が開きます。



6 リンクしたいデバイス(ここでは「Android」)をクリックします。

7 QRコードが表示されます。パソコンはこのままの状態にしておき、150ページを参考にAndroidスマートフォンでリンク設定を開始してください。



応用技

「設定」から「スマートフォン連携」アプリを開く

「設定」を開き、[Bluetoothとデバイス]→[モバイルデバイス]の順にクリックすることでも、「スマートフォン連携」アプリは開きます。「スマートフォン連携」を[オン]にすると、上の手順5の画面が開きます。また、リンク済みの場合は、「スマートフォン連携を開く」をクリックすると、「スマートフォン連携」アプリが開きます。



45 iPhoneと連携しよう

ここで学ぶこと

- ・スマートフォン連携
- ・リンク
- ・iPhone

「スマートフォン連携」アプリを利用すると、iPhoneに届いた**SMSのメッセージ**をパソコンで**送受信**したり、**通話**をしたりできます。この機能を利用するには、iPhoneとパソコンを**リンク**します。

1 iPhoneとのリンクの準備を行う

解説

「スマートフォン連携」アプリを利用するには

「スマートフォン連携」アプリの機能をiPhoneで利用するには、iPhoneとパソコンをペアリング(リンク)する必要があります。ペアリングは、右の手順でパソコンのモニターに「QRコード」を表示し、そのQRコードをiPhoneで読み込むことで行います。

補足

連携済みスマートフォンがある場合

2台目以降の機器を連携させるときは、右の手順**1**の画面は表示されません。手順**1**の画面を表示したいときは、 [設定] → [自分のデバイス] → [デバイスの追加]の順にクリックします。なお、「スマートフォン連携」アプリで連携できるのは、「既定」に設定された1台のみです。現状では2台の機器を連携しても2台同時に利用できるわけではありません。

- 1 148ページの手順を参考に「スマートフォン連携」アプリを開き、



- 2 [iPhone]をクリックします。

- 3 QRコードが表示されます。パソコンはこのままの状態にしておき、163ページからの手順を参考にiPhoneで同期設定を開始してください。



2 iPhoneとパソコンをペアリングする

解説

iPhoneとパソコンをペアリングする

iPhoneとパソコンのペアリングには、Bluetoothを利用します。Bluetoothを備えていないパソコンでは「スマートフォン連携」アプリの機能を利用できません。iPhoneとパソコンのペアリングは、右の手順で行います。



- 1 iPhoneの「カメラ」アプリを起動し、
- 2 パソコンのモニターに表示されたQRコードを読み取ります。
- 3 「カメラ」アプリに表示されたリンクをタップします。



- 4 [開く]をタップします。



- 5 「デバイスのペアリング」画面が表示されます。

- 6 [続行]をタップします。

補足

QRコードの制限時間

162ページの手順**3**で表示したQRコードには、「3分間」の制限時間があります。iPhoneとパソコンのペアリングは、QRコードの制限時間内に行えないと失敗する場合がありますので注意してください。

51

写真を編集しよう

ここで学ぶこと

- ・トリミング
- ・背景をぼかす
- ・リスタイル (AI)

「フォト」アプリは、写真を閲覧するだけでなく、本格的な写真の編集機能も備えています。たとえば、写真を**トリミング**したり、AIの支援によって**写真内のデザインを変更**したりできます。

1 写真(画像)の編集を開始する

解説

写真の編集を行う

「フォト」アプリを利用して写真の編集を行うときは、右の手順で写真の編集モードに切り替えて作業を行います。

補足

HEICの写真の編集する場合

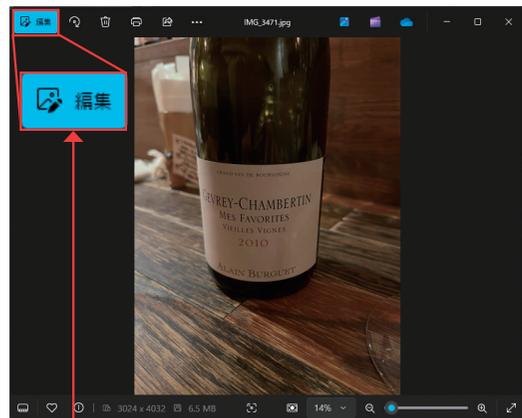
iPhone / iPadで撮影したHEIC形式の写真の編集を行うときは、HEIC形式とは別の形式で編集後の写真を保存する必要があることを知らせるダイアログボックスが表示されます。その際は[OK]をクリックしてください。

補足

AIアイコンについて

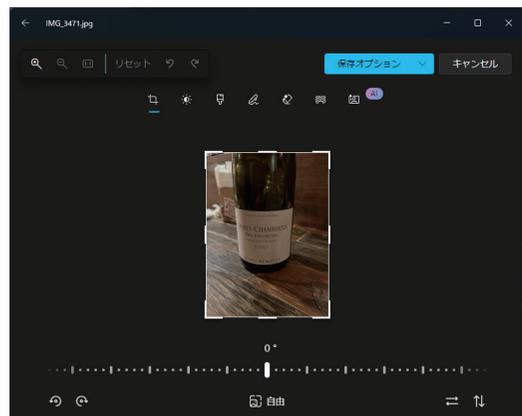
Copilot+ PCを利用している場合は、アイコンが表示され、AIを活用した写真をリスタイルする追加機能を利用できます(185ページ参照)。

1 「フォト」アプリで色調整を行いたい写真を表示します。



2  をクリックすると、

3 写真(画像)の編集モードに切り替わります。



2 写真をトリミングする

解説

写真のトリミング

「フォト」アプリのトリミング機能は、グリッド内に配置されている部分を残し、それ以外をカットします。トリミングをやり直したいときは、画面上の[リセット]をクリックすることで設定前の状態に戻せます。右の手順では、グリッドの縦横の幅を変更し、残したい部分の調整を行う方法を紹介しています。

応用技

縦横比や拡大／縮小でトリミングする

画面下のををクリックすると、あらかじめ用意されている縦横比でグリッドの大きさを変更できます。また、写真の特定部分を拡大して残したいときは、画面上のををクリックして縮尺を調整します。

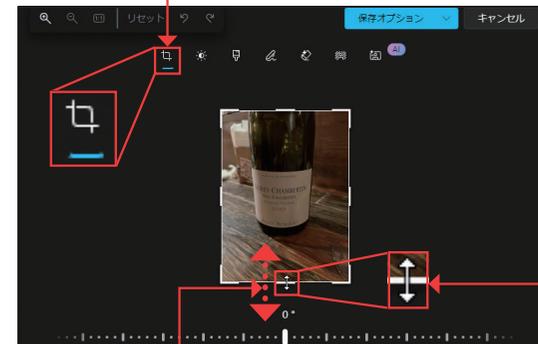
補足

写真の傾きを調整する

画面下のをドラッグすると、写真の傾きを調整できます。また、をクリックすると写真を反時計回り／時計回りに90度回転させます。をクリックすると写真を水平／垂直に反転させます。

1 が選択されていないときは、をクリックします。

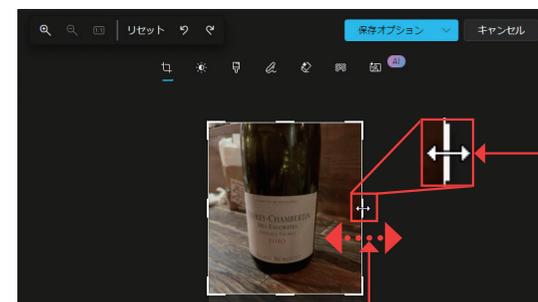
2 写真の上下(ここでは下)の枠にマウスポインターを移動すると、マウスポインターの形状が変化(ここでは)するので、



3 ドラッグして枠(縦の枠)の幅を調整します。

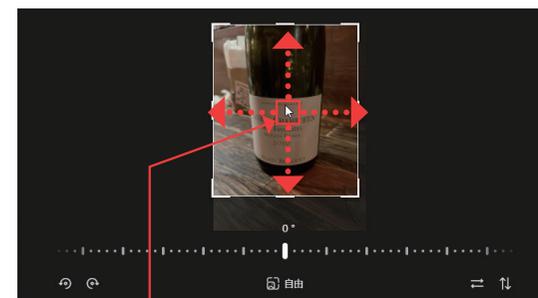
4 縦枠の幅が変更されます。

5 続いて左右(ここでは左)の枠にマウスポインターを移動すると、マウスポインターの形状が変化(ここでは)するので、



6 ドラッグして枠(横の枠)の幅を調整します。

7 横枠の幅が変更されます。



8 写真をドラッグして位置を微調整します。枠内の部分が残され、それ以外はカットされます。

52

Image Creatorで
画像を作ろう

ここで学ぶこと

- Image Creator
- AI
- 画像生成

Image Creatorは、生成AIを活用した画像の生成機能です。この機能を利用すると、**生成したい画像のイメージを文字入力するだけで、AIが画像を生成**してくれます。Image Creatorは、「フォト」アプリから利用できます。

1 Image Creatorで画像を生成する

解説

Image Creatorとは

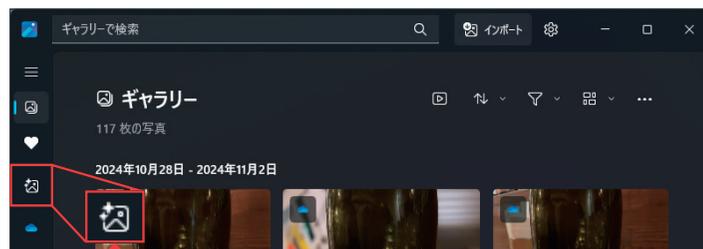
「フォト」アプリに備わっているImage Creatorは、Copilot+ PCでのみ利用できる、AIを利用した自動の画像生成機能です。この機能を利用できるパソコンにのみアイコンが表示されます。右の手順では、Image Creatorを利用して画像を生成する方法を説明しています。なお、Image Creatorをはじめて利用し、「Microsoft アカウントが必要です」と表示されたときは、[サインイン]をクリックしてください。

補足

画像は自動的に生成される

Image Creatorは、生成したい画像の指示を日本語で入力すると、その内容を読み取り、入力の途中でなくても自動的に画像の作成がはじまります。また、指示内容が増えると自動更新され、生成する画像の内容もそれに沿ったものが新たに生成されていきます。

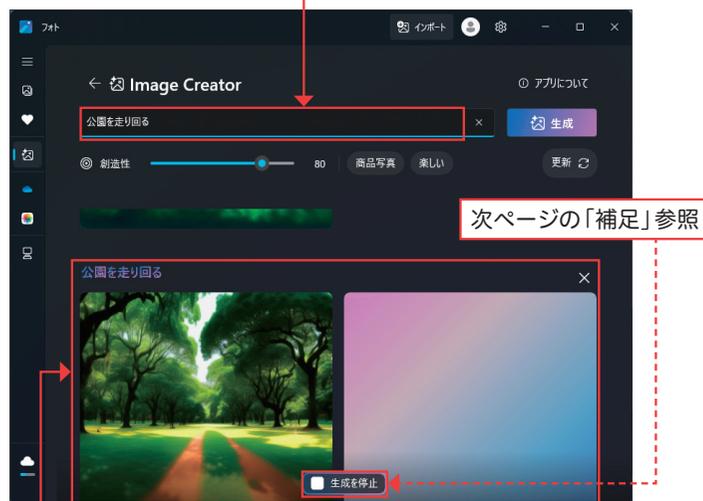
1 180ページを参考に「フォト」アプリを起動しておきます。



2 をクリックします。

3 Image Creatorが開きます。

4 プロンプトに生成したい画像のイメージを文字で入力していくと、



5 自動的に画像が生成されていきます。

次ページの「補足」参照

補足

画像の生成について

Image Creatorの画像の生成中は、画面下に[生成を停止]と表示されます。画像の生成を途中で停止したいときは、これをクリックします。

応用技

創造性を調整して画像を再生成する

[創造性]のスライダーを右へドラッグするとオリジナリティを高く設定でき、逆に左へドラッグするとオリジナリティが減少します。また、[更新]をクリックすると、生成する画像のスタイル候補が切り替わります。これらを設定し、[生成]をクリックすると、文字による生成指示はそのままに、オリジナリティやスタイルを変更した別の画像を生成します。

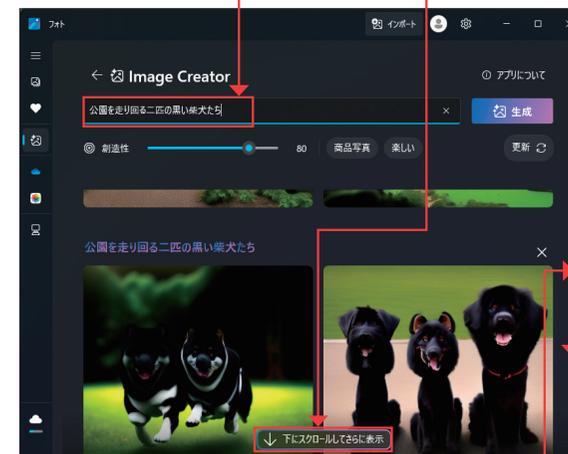
ヒント

画像を保存する

生成した画像を保存したいときは、保存したい画像の上にマウスポインターを移動させをクリックするか、画像内で右クリックして[保存]をクリックします。また、保存したい画像を順にクリックして選択し、画像内で右クリックして[保存]をクリックすると、選択した画像すべてを保存できます。なお、手順9の方法で画像を閲覧すると、その画像は自動的に「ピクチャ」フォルダー内にある「Image Creator」フォルダー内に自動保存されます。

6 指示がすべて入力され画像の生成が完了すると、

7 「↓下にスクロールしてさらに表示」と表示されます。



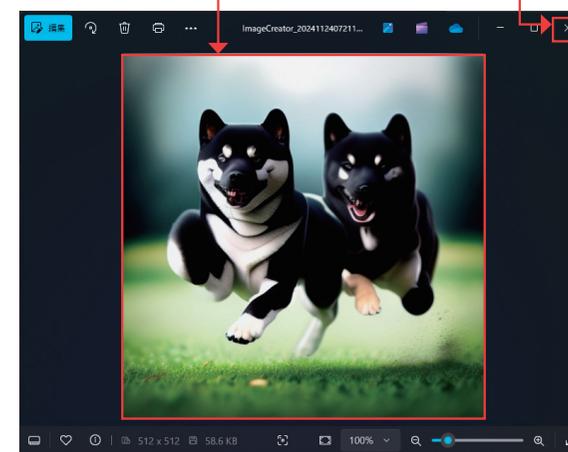
8 必要に応じて画面をスクロールし、

9 閲覧したい画像をダブルクリックします。



10 選択した画像が表示されます。

11 をクリックすると、



12 Image Creatorの画面に戻ります。

Section

53

オリジナルのビデオを作成しよう

ここで学ぶこと

- ・Clipchamp
- ・ビデオの自動作成
- ・AI

パソコンに取り込んだ写真やビデオから**オリジナルのビデオを作成**したいときは、「Microsoft Clipchamp」アプリを利用します。同アプリは、AIを利用したビデオの自動作成機能を備え、かんたんにビデオを作成できます。

1 AIでビデオを自動作成する

解説

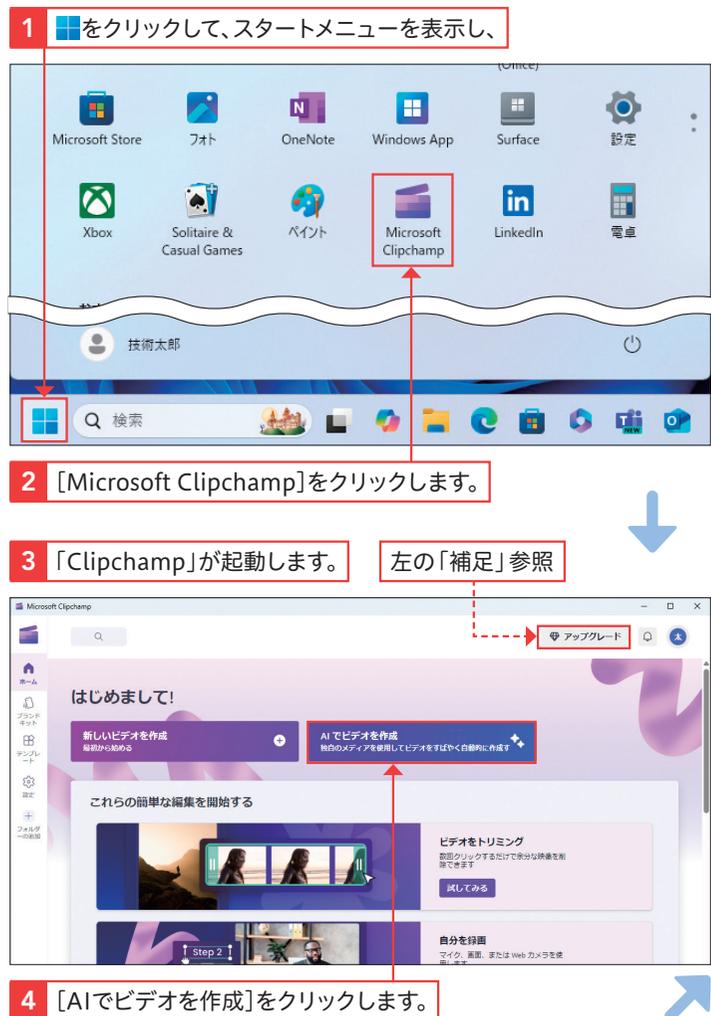
ビデオの自動作成

「Microsoft Clipchamp」アプリは、AIによるオリジナルビデオの作成機能を備えたビデオ編集アプリです。写真やビデオを登録するだけで自動的にオリジナルのビデオが作成できます。なお、アプリをはじめて起動したときは、名前や使用目的などをたずねる画面が表示される場合があります。この画面が表示されたときは、画面の指示に従って操作してください。

補足

Premiumプランも用意

「Microsoft Clipchamp」アプリは、ほとんどの機能を無料で利用できますが、月額1,374円(税込み)のPremiumプランにアップグレードすると、4Kビデオの編集などいくつかの付加機能を利用できます。Premiumプランは、[アップグレード]をクリックすることで申し込みます。



補足

ドラッグ&ドロップでファイルを追加する

ビデオの作成に用いる写真やビデオなどのファイルは、エクスプローラーからファイルを手順6の場所にドラッグ&ドロップすることでも追加できます。

補足

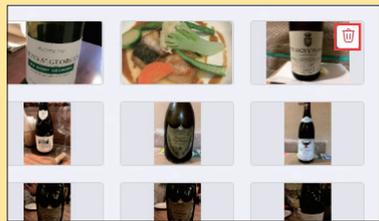
追加できるファイルの形式

右の手順では写真／ビデオファイルを追加していますが、音楽ファイルを追加することもできます。追加した音楽ファイルは、BGMに利用できます(193ページの「応用技」参照)。

ヒント

追加したファイルを削除する

間違っって不要なファイルを追加したときは、削除したいファイルの上にマウスポインターを移動します。🗑️が表示されるのでクリックすると、そのファイルを削除できます。



56

文章や画像を作ってもらおう

ここで学ぶこと

- ・文章の生成
- ・画像の生成
- ・回答のコピー

「Copilot」アプリは、条件を指定して指示を出すと、**その条件に沿った文章を生成**したり、イラストなどの**画像を生成**したりもしてくれます。生成された文章や画像は、コピーや保存を行って別のアプリで利用することもできます。

1 「Copilot」アプリで文章を生成する

解説

条件の入力で文章を生成する

「Copilot」アプリは、チャットウィンドウにキーワードや背景などの条件を入力することで、目的に応じた文章を生成できます。右の手順では新しいチャットを作成し、文章の生成を行っています。新しいチャットの作成が不要な場合は、「Copilot」アプリが起動したら、手順5に進んでください。

補足

条件の入力方法について

盛り込みたい条件は、右の手順のように箇条書きで入力したり、文章を「、」で区切って入力したりできます。なお、箇条書きを行うときなど、文章を改行したいときは、**[Shift]**を押しながら**[Enter]**を押します。



1 Copilotアイコンをクリックし、

2 「Copilot」アプリが起動したら、

3 + をクリックして、

4 「新しいチャットを開始」をクリックします。

5 チャットウィンドウに生成したい文書の種類や条件などを入力し、



6 [Enter]を押すか、↑ をクリックします。

補足

Copilotで文書生成する

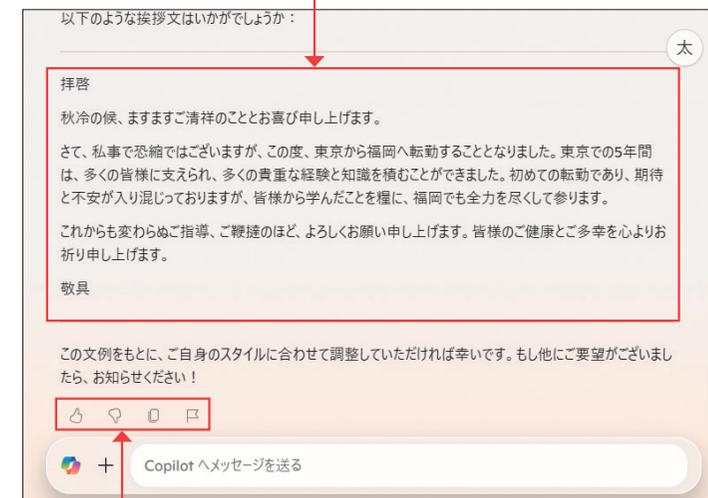
文章の生成は、Webブラウザの「Microsoft Edge」からも行えます。Microsoft Edgeで文章を作成する方法については210ページを参照してください。

7 文章が生成されて表示されます。



8 文章がすべて表示されていないときは画面をスクロールすると、

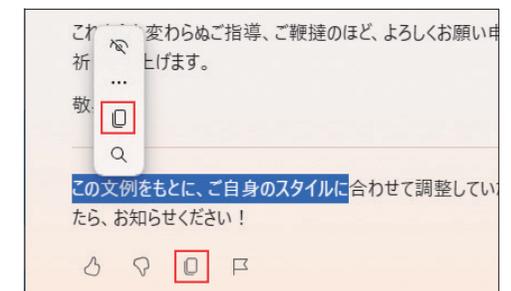
9 生成された文章をすべて表示できます。

10 ウィンドウ内にマウスポインターを移動させると、    が表示されます(下の「応用技」参照)。

応用技

生成された文章をコピーする

「Copilot」アプリのウィンドウ内にマウスポインターを移動させると、回答として表示された文章の最後に     が表示されます。 をクリックすると、すべての文章をコピーできます。文章の特定の部分をコピーしたいときは、コピーしたい部分をドラッグして範囲指定するとメニューが表示されるので、 をクリックします。また、範囲指定した文章をメモ帳などのアプリにドラッグ&ドロップすると、範囲指定した文章をコピー&ペーストできます。



62

画像の文字を
テキスト化しよう

ここで学ぶこと

- ・ Snipping Tool
- ・ テキストアクション
- ・ OCR

Snipping Toolは、「**テキストアクション**」というOCR機能を備えています。この機能を利用すると、スクリーンショットや写真に撮影された**文字をデータとして抜き出し**、ほかのアプリで活用できます。

1 画像の文字を読み取ってテキスト化する

解説

テキストアクションとは

テキストアクションは、Snipping Toolに備わっているOCR機能(光学文字認識機能)です。この機能を利用すると、スマートフォンなどで撮影した写真内の文字や、スクリーンショットに表示されている文字情報をパソコンに保存したり、アプリに貼り付けたりできます。ここでは、Snipping Toolで写真から文字情報をコピーする手順を説明しています。

補足

読み込めるファイル形式

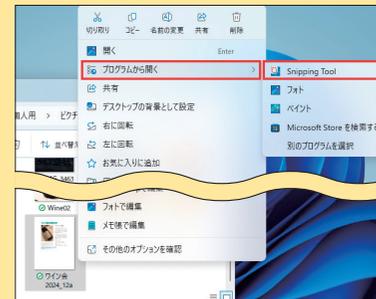
Snipping Toolは、「.BMP」「.JPG / JPEG」「.PNG」「.TIF / TIFF」「.ICO」「.GIF」などのメジャーな画像ファイルの形式に読み込み対応しているほか、ソニーやキヤノン、ニコン、ライカ、ペンタックス、サムスンなどのデジタルカメラのRAWファイルの読み込みにも対応しています。



★ 応用技

ファイルの読み込み方法
について

Snipping Toolへの画像ファイルの読み込みは、読み込みたい画像ファイルを右クリックし、[プログラムから開く]→[Snipping Tool]をクリックすることでも行えます。また、Snipping Toolのウィンドウに画像ファイルをドラッグ&ドロップしても読み込めます。



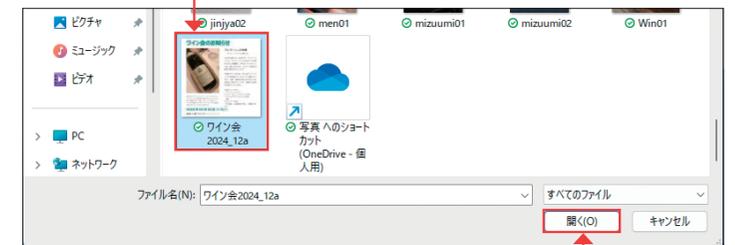
補足

文字情報をほかのアプリで
利用する

手順12でコピーした文字情報は、メモ帳などのほかのアプリに貼り付けて利用できます。アプリへの貼り付けは、[Ctrl]を押しながら[V]を押すことで行えるほか、クリップボード(234ページ参照)を利用することでも行えます。



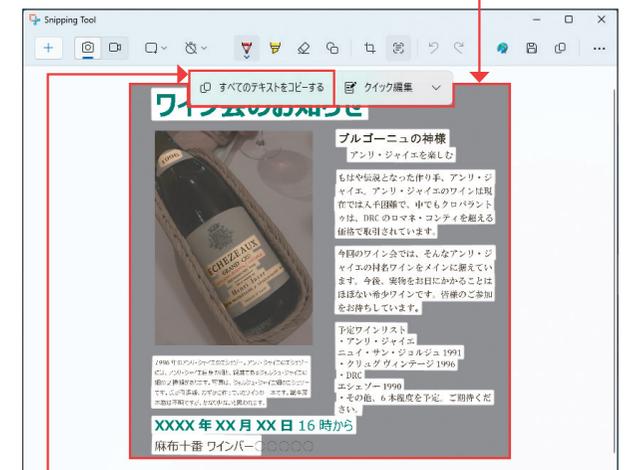
7 読み込みたいファイルを選択し、



8 [開く]をクリックします。

9 Snipping Toolに選択した
ファイルが読み込まれます。

10 [読み込み]をクリックします。

11 テキスト(文字情報)として認識さ
れた部分が白背景で表示されます。12 [すべてのテキストをコピーする]をクリックすると、
認識されたテキストをコピーできます。